

Goal Activityに向けた つながりのある指導



工藤 洋路
(玉川大学)

Goal Activity Read + Write / Speak とは?

新しいNEW CROWNでは、各レッスンの最後にGoal Activityという名の言語活動が設定されている。Goal Activityには、活動のメインが発信領域（書くこと／話すこと）のもの、受容領域（読むこと）のものがある。本稿では発信領域の言語活動（「Write / Speak」）を取り上げ、その特徴や指導のポイントなどについて概説する。

「Write / Speak」は右の表の通り、各学年において、複数の単元に設定されており、主たる活動がWrite「書くこと」の単元とSpeak「話すこと」の単元に分かれている。なお、学習指導要領で示されている「話すこと [やり取り]」については、教科書では主にSmall Talk Plus（本書pp.13, 24-25）とTake Action! Talk（本書pp.13, 34-35）で扱っているため、詳しい説明はそちらに譲る。

「Write / Speak」のページは、2・3年生のLesson 1を除いて、すべて見開きの2ページで構成されている。多くの単元では、左ページにモデル文（Speakであれば発表メモ）が載っている。このモデル文は、教科書の登場人物が作成したという設定になっており、同ペー

ジの二次元コードから、その人物がモデル文を作った過程をアニメーションで視聴できる。これを見ることで、ある程度まとまった量の英文を書く際にたどるべきプロセスを学ぶことが可能になる。右ページでは、このモデルを分析した上で、設定されたステップに従って、実際に書いたり、話したりする活動になっている。

「Write / Speak」では、どの単元の活動においても、英語によるコミュニケーションを行う上での目的・場面・状況が設定されている。生徒と一緒に、誰に向けて、何のために伝えるかということを確認した上で、書くことや、話すことの言語活動に取り組みたい。

	発信領域		受容領域
	Write（書くこと）	Speak（話すこと）	Read（読むこと）
1年生	Lesson 6, 8	Lesson 5	Lesson 7, 9
2年生	Lesson 2, 4, 7	Lesson 1, 5	Lesson 3, 6, 8
3年生	Lesson 2, 4, 5	Lesson 1, 7	Lesson 3, 6, 8

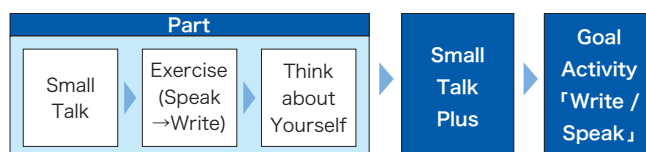
(※1年生のLesson 1～4は「書いてから話す」という言語活動)

Read + Write / Speak につながる小さな言語活動

ある程度まとまった内容を書いたり、話したりする言語活動は、一般的に単元の最後に位置づけられることが多い。「Write / Speak」も各単元の最終活動として設定されている。その理由の1つは、各単元にはターゲットとなる文法事項があり、「Write / Speak」でこの文法事項を活用することを想定しているからである。そのため、授業展開は、まずは新しい文法事項を学習した上で、次に、その文法事項を定着させるための練習活動を行い、そして最後に、それを活用する活動を行うことになる。つまり、単元の指導は、PPP（Presentation - Practice - Production）型の授業展開になる。Presentationの段階で文法を導入し、Practiceの段階でその文法を練習し、そして、最後のProductionの段階でその文法を活用するための言語活動を実施するという展開である。

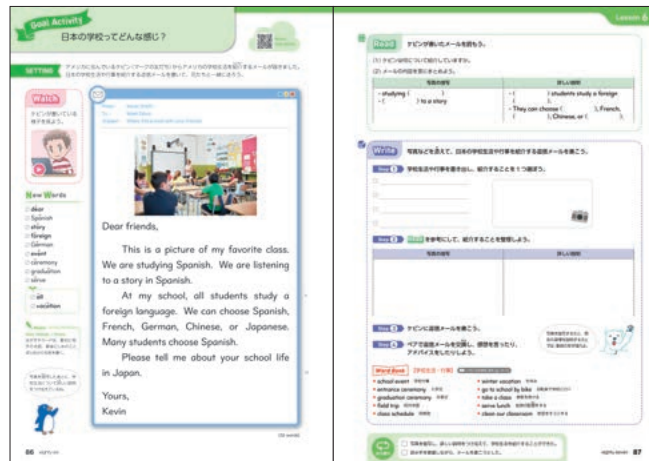
しかし、PPPには、PresentationやPracticeで時間をかけ過ぎるとProductionの時間が取れなくなることに加えて、文法の定着なしでは言語活動に進んではいけないという感覚を、教師も生徒も持つ可能性があるというデメリットがある。加えて、厳密にPPPに従い各

段階を分離して個別に行くと、学習指導要領がうたう「言語材料と言語活動とを効果的に関連付け(る)」ことができない。そこで、新しいNEW CROWNでは、単元の最後の「Write / Speak」だけで言語活動を行うのではなく、その最後の活動に向けて、小さな言語活動を積み上げていけるように、単元の前半のPartには、Small Talk、Exercise (Speak→Write)、Think about Yourselfといった活動が組み込まれている。これらの活動は、発信する英語の量はそれほど多くはないが、自分の考えや経験などを伝える活動になっている。また、Goal Activityが「Write / Speak」の単元には、その直前にSmall Talk Plusという「話すこと [やり取り]」の活動が設定されている。こうした活動を積み上げていくことで、「Write / Speak」で必要な言語材料や言語技術などを少しずつ学習することが可能になる。





1年 Lesson 6 Part 1



1年 Lesson 6 Goal Activity

Read + Write / Speak を見据えた単元指導のポイント

先に述べた通り、各単元では「Write / Speak」に向けて複数の言語活動を積み上げていくことができる。その際、右の表の通り、Partの各活動では、「Write / Speak」に取り組む際に必要となる要素を学習のポイントとしたい。

例) 1年 Lesson 6 を見てみる。まず、学習ポイントの1つはトピックである。Goal Activityに向かう過程において、共通のトピックを扱うことで、事前に簡単なブレインストーミングを行っている状態を作ることができる。言語材料については、この「Write / Speak」では写真を添えて返信メールを書くことが求められているため、その描写に必要な現在進行形を、同じ写真描写の活動で事前に学習する。設定は、ここでは「海外の人に伝える」であるため、日本の学校のことに詳しくない人に伝えるときの留意点を事前に学ぶ。構成や展開では、「日常(一般)の描写: 給食で全員が同じものを食べることの説明」→「具体描写: 給食でカレーを食べている写真の描写」といったように伝える内容の展開を事前に学ぶ。言語技術は、ここでは「感想を伝える」を扱っている。Goal Activityで書く返信メールは事実描写だけではなく、自分の感想を最後に加えることで、より適切なメールになることから、事前にこの技術を学ぶ。このように、Goal Activityで必要な要素を事前に1つずつ学び、最後にそれらを組み合わせながら、与えられた課題に取り組むことで、実際の言語使用に近い形態のコミュニケーションを体験できることになる。

例) 1年 Lesson 6 School Life in the U.S.A.

パート		活動内容	学習ポイント
Part 1	Small Talk	好きな教科について、ペアで話してみよう。	・トピック
	Exercise	絵を見て、それぞれの人物が何をしているか説明しよう。	・言語材料
	Think about Yourself	海外の人に話すつもりで、休み時間や昼休みにしていることについて、写真を見せながら説明しよう。	・設定 ・トピック ・構成や展開
Part 2	Small Talk	好きな給食やお弁当について、ペアで話してみよう。	・トピック
	Exercise	絵を1つ選んで、ペアでクイズを出し合おう。	・言語材料
	Think about Yourself	海外の人に話すつもりで、学校の昼食について、写真を見せながら説明しよう。	・設定 ・トピック ・構成や展開

Small Talk Plus	What do you like about your school life?	・トピック ・言語技術
-----------------	--	----------------

Goal Activity 「Write」	アメリカに住んでいるケビンからアメリカの学校生活を紹介するメールが届きました。日本の学校生活や行事を紹介する返信メールを書いて、花たちと一緒に送ろう。(写真を添えて)	
--------------------------	---	--

Read + Write / Speak ではプロセスも重視する

「Write / Speak」では、書いたり、話したりする前に、モデルの英文を読んでそれを分析するReadという活動が設定されている。モデル文を読んで、キーワード等を表に埋めることで、内容の理解に加えて、作成すべき文章の構成や展開を把握することができる。一方で、実際に文章を作成するときは、瞬時にまとまりのある文章が完成するわけではない。思いついたアイデアを整理して、下ごしらえをした後で、1つずつ英文の形にしていく。このプロセスの学習が英語でまとまりのある文章を作成するために大切になる。そこで、「Write / Speak」では、「Watch 陸が書いている様子を見よう」といった動

画が用意されている。英文の書き手が、アイデアをどのように創出し、それらをどのように取捨選択して、アウトラインを作ったかなど、二次元コードを活用することで「書くプロセス」の学習が可能となる。また、話すこと[発表]の活動についても、いくら内容が素晴らしいものであっても、話す際の工夫がなければ相手に適切に伝わらない。二次元コードを活用すれば、「Watch アンが話している様子を見よう」といった発表のモデルとなる動画を生徒に視聴させることができるので、併せて聞き手に伝わるように話すことの大切さを指導したい。